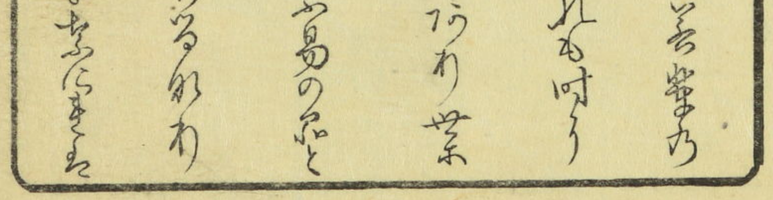
俳諧
古今類聚玉集
春

茅延庚申夏新彫

小蓑菴雄嶺 輯
遏日蓁祖紹 補校

俳諧
古今類聚玉集

江戸書林 青雲堂梓



素より此度環語字綴衣裳あらためて布か如くさしての
前語小冊草子に綴りて並べ置くと思へる愚績は
集めて成り麦夏妹の二葉より雕刻せしてその新学
家人を誘ひて故人のかくれに入るる後書肆の庫中に
龍阿といふ枕むかしの新板を古き新しきも也とて
世語る月庵に乞ひて之を去るに補綴せしめ給り此ごとく

雅言も加へぬる者口調の同じからぬ事も亦撰者の取捨
也雅好き語等の布衣あらむ雅俗共に耳順手
安く見えて流行り雅俗を知命なるを言葉る流行
移り替り時世の好みに従ひ改め出して下早く
此を以て杜撰の多くてらしく常付まで志ある年幸
於てや此さる事投合於満の多くするを待る筆

[illegible]

[illegible]

安政五年葉月

[illegible]

[illegible]

文学の道もさらなり[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

捨ひ寄しをしらぬのみ見し人さへいつはりに出見ん
引ちむも宮きちを業めしあまたされちひ何某か
操業のとちなくてすゝんとせる手乃よろ記筆の
色ことかへ補ひ梓にその世にさりしにせむる
予らに跋り合せて読み来れ世に多くに何とその
徳してとあは世すらん人のかりに歎世り
法をあつく世に文の法をらぬ人祖翁の法をも
しらむる一篇なしむ向し出ていく跋めしき

すむおもくゆゑしてとまひつゝまたにもひを
ちま切自の字に字清多根あるあまたのを
去る冊子版様の草履ま来り出しておれくらに
自校をきしつゆるからにのまかく墨をなせ
石濱の野人粘水風村蛙翁の暁り中り所く
まりたるみ草紙拙見

癸書　越中喜世去

俳諧古今類聚玉集

春之部

元日 一
立春 一
梅春 二
今春 二
花春 三
寒う春 三
御代春 三
千代春 四
雪春 四
春の始 四
元方初 四
年立 四
東風 四
初霞 四
初鶯 四
初鳥 四
初空 五
初日 五
霞の春 五
四方の春 五
古書 五
草路 六
霞初 六
太夫 六
御祭 六
草枕 六
三ヶ日 六
御降 七
いわい祝う 七
いわい祝う 七
初摩 七
初夢 七
寶船 八
年玉 八
去年今年 八
門松 八
門松 八
門鶴 八
住還鶴 八
鶴帰 八
鶴 九

錺海老	九	錺炭	九	穂俵	九	福藁	九
野老	九	裏白	九	鏡餅	九	大福	九
蓬莱	十	喰積	十	屠蘇	十	雜煮	十
元方	十	年男	十	姫始	十	節季	十
嫁ヵ君	十一	萬歳	十一	鳥追	十一	猿曳	十一
傀儡師	十一	松の内	十一	福引	十二	羽子	十二
破ア弓	十二	手鞠	十二	正月	十二	睦月	十三
初子日	十四	小松引	十四	水祝	十四	人日	十五
七種	十五	若菜	十五	薺	十六	芹	十七
佛座	十七	すゞ屋	十七	出形	十七	恵具	十七
薹	十七	福寿艸	十八	削掛	十八	小正月	十八
福沸	十八	番卸	十八	初芝居	十八	爆竹	十九

立春	十九	餘寒	十九	春寒	十九	冴返	二十
春雪	二十	淡雪	二十	殘雪	二十	雪解	二十
雪間	廿一	氷解	廿一	初霞	廿一	霞	廿二
糸霞	廿三	結縷離	廿三	長閑	廿三	霾	廿四
暖	廿四	春日	廿四	永日	廿五	遅日	廿五
東遊	廿五	陽炎	廿五	東風	廿六	春風	廿六
春雨	廿七	畑打	廿八	田打	廿八	木芽	廿八
草萌	廿八	下萌	廿九	若艸	廿九	若芝	廿九
春艸	廿九	蕗薹	卅	梅	卅一	紅梅	卅二
柳	卅三	芽柳	卅六	梅花	卅六	梅種	卅六
若蓬	卅六	若翠	卅七	椿	卅七	嫁菜	卅八
三葉芹	卅八	菜苗	卅八	猫恋	卅八	若鮎	卅九

白魚 兆九
百子令 四十二
蜘 四十三
二月 四十三
彼岸 四十六
競馬 四十六
春雪 四十七
春夜 五十
梅の花 五十二
天拝花 五十三
蒲公英 五十四
雛子 五十五
夢 四十
駒鳥 四十二
蛙 四十三
柳花 四十三
春雨 四十四
初午 四十五
西行忌 四十六
苗代 四十七
彼岸 四十九
山桜 五十一
菜の花 五十二
蒲公英 五十三
芽角 五十四
彩菓 五十五
雲雀 四十一
蛙 四十三
御忌 四十三
初午 四十五
涅槃 四十六
種蒔 四十七
彼岸 四十九
田螺 五十一
菜の花 五十二
蒲公英 五十三
芽芽 五十四
馬酔木 五十五
山焼 五十五
赤黒坊 五十五
乙鳥 五十六
雛子 五十六
恋猫 五十七
雀子 五十七
引鶴 五十八
小令引 五十八
鳥交 五十八
春令 五十八
蛙 五十九
蟇 五十九
田螺 五十九
妹 五十九
菜の花 六十
菜畑 六十一
菜の雲 六十一
菜山 六十一
水喰 六十二
菜川 六十二
菜畑 六十二
菜畑 六十二
泥生 六十二
雛 六十三
汐干 六十三
桃 六十四
花菜行 六十五
初花 六十五
花 六十五
初桜 六十八
桜 六十九
山桜 七十二
八重桜 七十二
遅桜 七十二
桜朝 七十三
蜂の巣 七十四
香 七十四
海棠 七十四
小束子 七十四
小束子 七十四
種芋 七十四
藤棚 七十四
連翹 七十四
辛夷 七十五
石南花 七十五
花種 七十五

菜摘	七十五	躑躅	七十六	菱	七十六
燈籠	七十六	鶯	七十六	蓮	七十七
芽花	七十九	若草	七十九	草摘	七十九
蓬生	七十九	芹のむし	七十九	山蔭	七十九
射鰐	七十九	鶉合	七十九	貝寄	七十九
胡子寄	八十	蛍	八十	子寄入	七十九
蛇	八十	蜂	八十	壬生通	八十
沖影供	八十一	蓮の忌	八十一	藪入	八十一
鶯塞	八十一	水地炉後	八十一	寒食	八十一
別寓	八十二	行春	八十二	春菊	八十三
夏近	八十四	夏陣	八十四	夏混雑	八十四
水泡	七十六	山吹	七十七	水芭蕉	七十九
神鰐	七十九	小雨引	七十九	麦鶉	八十
蛍狩	八十一	春別	八十四	雜歌	九十

歌合二百七十四歌余

俳諧古今歌仙春之集

小蓑庵雄嶺撰

橋梁ささゝみ校

春山文蕉合

春之部

元日

元日や　まのあたりなる　世まつ　　關更

元日や　大樹の　もとの　人ちらし　　白雄

元日や　華をさきある　東山　　蒼虬

元日や　雲くゝ　ハ　ゆ　ゆ　　一具

元日の　人は　陸奥　ゆ　　由誓

元日ハ　ゆ　ゆ　ゆ　　卓池

春立

元日や雲ふかき山はなる　祖鄉
元日や巖もあらはるる　江戸 貫三
元日や一時のちから　卜早
元日や蛙なきしの上　江戸 内亀
元日の雲ふかきもの　菊雄
元日や人も雲ふる　尾村
元日や一つのそらぬ雲ふる　完鵬
地のみちの人　江戸 梅司
元日や一番鶏なる　豈麿
元日や一番鶏の鳴る　半月
雲ふる海ちの上ちり　丁知

明春

雲ふる雲の中ふる　加佐良
雲ふる時の雲ふる　江戸 蓬交
雲ふる雲の深霧ふる　松夫
雲ふる田ふる　成美 其彭
雲ふる　菊雄
水ふる雲ふる　亀成
山の雲ふる雲ふる　由誓
白雲の雲ふる　松什
樹の間ふる雲ふる　梅室
雲ふる春の時の雲ふる　立川澄
雲ふる春の時の雲ふる　為山

今朝春

菊雄
遠交
祖風
蒼虬
卜早
麥島 [illegible]
鄙山
南江
亀成
[illegible]

花春

素雀
叢鶯
信州 吉斎
江戸 千秋女
下毛 嵐斎
上毛 魚龍
ユキゴ 董水
菊三
成義
蒼虬
素雀

君ゝ春　ニチコ　孔丘

御代春　江戸　喜ノ守

鶯夫

信州　苣丸

江戸　炉扇

信州　八朗

月桂

亀國

存亜

静雨

千代春　江戸　孚石

斗遠

長翠

三ツの朝　江戸　志文

易足

亀國

静雨

日の始　保吉

恵方棚　ロチゴ　如石

苣丸

里雀　下毛

門掃や第の先も庭代の春

庭代の春ふるとも春ふるれ

千代の春ふるとも千代の春

歌のうちも第の戸ぶそ千代の春

あるくもるるかをを鈴ふ三ツの春

ちつのうと押ふ手形や三ツの春

新彼岸や第をふるの始

岩盤市の苣ふ中ふるの始

手棚の彩ふ中ふ始

西歩の首を吹ふ恵方棚

年立　年立や葉ぬけ通ふ松の風　保吉
　　年立や夢ハそこなる面影出て　椿堂

春来　春の来ていつてとせの夕うぶ　江戸　春嶺
　　春迎ふ春ハ春なる雲ハ光　上毛　左ゝ小

若水　若水や元五月井の底　白雄
　　若水や初陽ハ古の流うる　月居

初鶏　初鶏やうつの勤ゐうゐ　春蟻
　　初鶏や梅へうゐる鶏啼　加州　梅室

初烏　くも我も池山ゐうゐ初烏　暁臺
　　一春ゆたて手の京ゐまうゐ　恒丸

ゆゆも本もゐ仏ゐ初烏　武州　碩布
　　日出ゐ一ゐ隅や初烏　静雨
　　一羽ゐ一羽ハ春ゐ月烏　工ヲ　尓弓
　　用の為ハ旅ゐ山や初烏　ヲハリ　庚年
　　少ゐ雪の降ゐ雪ゐ烏　武州　貞雄
　　一ゐ雪の雪一とせの初ゐ　江戸　芦文

初空　初空や向ゐ修の山家ゐ　素檗
　　初空や雲ゐ修の一重垣　連志
　　ゐつゐゐこゐ乃ゐゐ山の空　上毛　乙人
　　初空ゐ雀鳴ゐ孫先ゐ　啄秋

初日　初日ゐの初ゐ雀ゐ　長翠

日の光を彩や鶴の脚より
海の上は舟の乗り初め新　江戸　蕪村
ちるもあるきみの尾や初る新　孤村
彩るく渡る初日や宿の松　闌更
吹つ光るなかんぬきの初日　連志
すまきの八重垣もやくを尾の春　芦文
出歩行きを風物ものうも宿の春　葛三
あつまりの別れ惜しむ尾の春　八朗
四方の春　二見うら出るを出くれ四方の春　古稚紀
見あらたに八重もゆるよ四方乃春　秋峯
吉書　お初の敷をあらあらやよ　晩　長翠
　　三千彦

筆始　筆とる初の文の書もはつ　筆始　上毛　南楚
子は連れて長男も筆を筆始　巣兆
高くあるはつ筆　筆始　孚石
松風も書初きを揺　初　好雨
謡初　法風は連れて入る謡　初　成美
太箸　太箸や新しく新しく　猿山　長翠
太箸や名ばかりの先祖松の月　曉臺
太箸や菊の初　菊初　巣兆
太箸や寄るとしよりの秋　江戸　茶静
太箸の目を立て蚊の尾うれ　完来
　　蒼虬

御慶

年禮

三ヶ日

三千彦
桃几
八朗
金翠
菱丸
上毛
金翠
菱丸
上廿
謙々
丶
長齊
冨三

御降

積

ち彩
蘭更
乙二
乗布
有月
長荘
茶静
三千彦
碩布
素窪
志丈

のび上る菊に人の手のねまきを見かへる　保吉

きらくと春は鐘なり見かへる　桒布

山里の春を知りつゝ見かへる　上総 月久

初暦

斧の柄も朽んとおもふ初暦　三千彦

先ん嬉し居月二ツある初暦　雨考

読兼る日の来うし初暦　志丈

春二日三日立ちけり初暦　孚石

彼岸まては数算へて初暦　方舟

初夢

初夢や見る物かしく我の影　重厚

初夢や傘さして来る法果　三千彦

宵の事は初夢ならしや草枕　孚石

初夢やさめてきゝし舟の音　啄秋

まつ夢や山公乗へて画かゝり　エチゴ 玉岱

不二見えぬ夢もありて宝舟　斗入

とる我や座の枕も宝舟　江戸 應々

寶船

年玉の紙をひろげる春の嵐　葛三

年玉

手玉にはのさん家の蓋うる　乙良

去年今年

去年今年として一夜を境に姥捨山　孤星

影の夢の花さく去年今年　信州 柳玖

吹く風も去年今年東ある　鳳石

門松

門松や嬉しさるかゝやときき　エチゴ 誼布

門松ま初のけらるる　左来

美しき詞をしやつの松　江戸　梅木
きりて侍るとをつの松　信州　文席
つ松は梅も添くゝ　雄月女
つ松は梅も添くゝ　吉斎
家とゝゆゝくるゝぬつの松　百丈
門餅　内は焚る薪ゆつ年のしつ餅　篤老
志め餅　志め餅それをぬいせすゝ　有木
餅縄　素はゆる山家の注連餅　羽州　蒼虬
餅竹　風のをつゝ家本と餅　弁　江戸　蕉素
　　里うゝ来くゝ餅　江戸　兎國
　　長翠

松餅　面白いなの芋ゆうて餅　弁　信州　菊泉
　　松うゝ高ゝ高人俳しき山の尾　江戸　一具
　　白山世の宝の塔や　松　餅　武州　文玉
餅海老　ゝ穂る宝の俳ゝ餅　松　上毛　真橋
　　新もゝも家から餅俳老　雄嶺
餅炭　武家町やほのゝ明の餅俳老　江戸　旬光
　　浮山本の芋ゆうの餅　炭　上毛　谷川
穂俳　松弁ハ世の一節を餅　炭　蓍裡　以吉
　　穂俳やちゝもつれハ物の数　巣兆
　　穂俳の塔ゝ来めゝ山家ゝ　信州　挹芝
　　天ゝ代の新めゝ来ゝほんゝゝ　苣丸

福藁　福藁のたゝくうてるたまうな　葛三
福藁八寿海の出ハうめ　蕉雨
あ一肴　芳えんくやうの扱や　あ一肴　茅丸
老出り　たるハ出るたあ一肴　手枕紀
うら白　寿手寿たんを裏白のうら表　長翠
裏白の寿手ハたゝぬ寿ハ　葛三
裏白や風ハ一寿ハたんくふく　文吏
鏡餅　焼餅母死んくあをを文意一　暁臺
志つくと粉の彩粉や　焼　餅　武州　玉芝
大ふく　大ふくや丁度ハんくき不二の仏　ヨチゴ　方舟
大福や吉野ハ餅も金所の寿、　尓弓

蓬莱　蓬莱の山まつりをん老の寿　蕪村
蓬莱や竹の葉の霞さうひ　春鴻
蓬莱ハ並へうひる火桶うな　雨塘
人の世の蓬莱ハ米の林うな　秋峯
蓬莱や今年ハ繁昌をと老ハ世　葛三
蓬莱や我の生日のあつうき　一草
蓬莱や鶴うう見出る裏の畑　乙良
喰積　喰積ハ多物斗りや屠蘇ハ　三千彦
喰積も蜜ハ老初ぬ一つ供　護物
屠蘇　とそる辨人うたかう一四十点　一蕙
かつう重ねるまゝをとそのの辨　静雨

雑煮　三ツ椀の雑煮うるはや長者かな　蕪村

恵方　我宿をそなへ年ハ江戸を恵方かな　素窓

　　雲うるをみ我ま恵方ハあらうかな　葛三

　　彩のこゝろおけるを恵方かな　上サ　良々

年男　欲ゆせぬ彩もあらん年男　雉嶺

　　年男むすこ孫くるかな　谷川

きそ始　仕合と変ゝもをのしきそ始　葛三

　　義出ゆ笹の葉うれんきそ始　奇淵

　　孫人ゆきそ雪ちやき若始　ユキゴ　小哉

節着　ちやぬゝく屋敷ゆ出る節着　葛松

嫁ゝ君　梅の白ひらめく若ゝあん節中袖　南楚

　　三ゝ月をゆ見る新嫁ゝ君　乙二

　　義笠ゆ屋の宝を嫁ゝ君　雉嶺

万歳　万歳や諸義物喰ハ新せん　三千彦

　　万歳の横ゆ部をかゝ　葛三

　　万歳や寺ゆ寺ゆるさぬ白　荷乙

　　万歳や七年ゆ我ゆ年　一桃

　　万歳ゆ面ゆ敷ゆ敷ゆ　静雨

　　万歳とゆ里ゆ中移ゆ　挹芝

　　万歳とゆゆ者ゆ住者ゆ　二丘

　　万歳や月の中月を金ゆん　曲江

鳥追　[illegible]　さとの小　菫斎

猿曳　[illegible]　護物

傀儡師　[illegible]　確嶺

[illegible]　梅室

[illegible]　玄畦

[illegible]　二三

松の内　[illegible]　椿堂

[illegible]　鳳朗

[illegible]　確嶺

[illegible]　江戸　楓江

福曳　[illegible]　信州　半山

[illegible]　儿菫

[illegible]　素崔

羽子　[illegible]　菊泉

[illegible]　鳳朗

[illegible]　静雨

[illegible]　谷川

[illegible]　信州　可厚

[illegible]　護物

[illegible]　孚石

破弓　[illegible]　巣兆

手鞠つく　信州　古翠

正月　江戸　雉月女

正月の蕗の薹　禾木

小都うきたる正月　長翠

正月や梅さくらもく　丶

正月や梅の海　三平彦

正月や弦の立てる音　士朗

正月や雲の俳　成義

正月や女筆の物　升六

正月やけさ春衣袖の月　蘭更

乙二

睦月

正月の雨はさそる清水かな　丶

日もうくなる正月と有りなり　茶静

雨の日や正月ごろ別まある　連志

正月まるまるまき月哉　信州　梅窓

正月や旅籠よやきぬ舟大工　喜久守

正月は長い月なり俵まる　江戸　江魚

教庫しく正月紙の衣車所　素行

睦月は梅さくり松の睦月　長翠

美くしく屋の棟ゆる睦月　方舟

みしのくも長くも思ふ睦月　素窪

稚くも先に日の長くなる睦月　雉嶺

二月も同じ月のあき晴月小　信州　芹石
月ゆくあるる程柳のむつき小　江戸　芹翠
繕立もしてある寺の晴月小　五岐
一里八柳て月さんむつき小　信州　文耕
仏ゆめの杉ゆたかなる晴月小、　月桂
雨すして家の出て行晴月小　江魚
彩雲のかたまるれぬむつきうな　素行
彩雲棚なる雨もあるる晴月小　上毛　菱丸
変物の皆もあるきてきもつきい　江戸　吳翠
又ねもものかなゆる晴月小　孤星
あ〜雁のいとまなくて晴月小　貞雄

初子日

この子毋岬の杉よるのなせよ　白雄
男子手の杉やなくて紀子のなり　蘭更
弓ゆくるる武蔵ふりうる初子のなり　春鴻
寒さて逢きてのるそ面あき　保吉
気の作なるなるなるん初子のなる　葛三
箕公主と和ゆるくあくふ初子のなる　成美
先ん一人旅人乗るるのなるの　鼠月
ともくくもるる聖母のなるの小　上毛　雉啄
根曳せん宸房風を初子のなる　信州　一桃
田芹曳もんまるものなるの小　鷹山
初の神一杉とんて寿るなるの小

梅温尾
さくお

江戸 おさな女
梅野
詠帰
月居
静雨

小松曳

江戸 エチゴ

小弓
白雄
玉芝

水祝

武州

百年越

雉嶺
乙人
葛三
雨杖
宇橋
芳國
江魚
白雄
長翠
蕪村
几董

人日

七種

江戸

初若菜

七種や菊八人の保やもし
姫城と伝菊はくろ鶴の尾
七草八月の素の素くさ
七種七月の七夕八月の
くさくらくさそ野の素さう初の菜
男人のはつらめて摘けの菜うる
草の菜の表のとくるも更の亀
若り摘草を人のはつ若り
昼酒八女なのうり童草菜
草菜うる若とり白ふ表の
童うちる男のつくし草

春鴻
里月女
志丈
菫斎
篤老
保吉
三千彦
士朗
星布
五明
梅室

家有の月とくあること草摘
物年まる金の材きるる草
人の世とるくくくくきる草
大野伝摘しくくくる草
男ふくり摘ふくくくる草
摘まくくの素も久しき草 信州
大きるの酒くくくる草
草の見くくく摘草ふる草
松菊もるのくくるや草摘 羽州
松義八はの一の見て被りる 江戸
被りる雨とる草草 信州

巣居
茶静
大蘇
静雨
孚石
桐居
古鈴紀
春嶺
花江
易年
雨聴

薺

四方彩よ弼てゝ屋とあるうゝ多
けの多の表陸奥の拾ひの堂と兄
揚よりもるるれて書きそ菓子
蒿うう朝の新物をおくうう
ゝ新ん蒿たやしも実うる
蒿麦我ゆよあれと残昔ん
蔵ゝさ水法買てやる蒿小
庚るる乳よあうて又揚蒿小

四のもやたやしも世ひる蒿新
初るハ月の高さよ蒿うう見
云ゆるゆもを絞して行や蒿うう

信州 柳玖

江戸 梨玉

平十ゴ 鼎湖

一桃

葛古
玉芝
簇素
白雄
闕更
青羅
雨考

芹

佛座

伯爾をゝゝもゝゝ難し蒿小
蛙ゝさの多るも白小蒿ゝの
小畑の糸ゝよ残ゝる蒿うう
いるる文の蒿揚あり揚ゆうう
ゝもゝ程揚ゆのゝる蒿小
揚るゝやゝ芹を結ひゝ芹の文
見ゝうる程ゝゝうう芹の中
子を明てゝ行も表ゆれ芹蒿
揚人をゝゆやゝ書き四芹小
芹の芽出ゝ牛も屋ゝ四面小
見ゝゝハ潜てゝ事ゝう伝の産

喜多守
連志
三桂
椿海
阿兮
保吉
蕪村
静雨
志文
連志
梅室

仏座

鳴くもなしふるぬ草あれ仏の座　エチゴ　乙里

古里の見らる春や仏の座　武州　有臺

草ならぬもと見る[illegible]の[illegible]　乙良

月よりうるはしき[illegible]咲　武州　秋臺

松かげにも[illegible]世話やほとけ咲　菫齋

五形

耕やげんげさく田の[illegible]の分　一桃

陽春のさく径白いげんげの花　江戸　伯夫

撰まるる[illegible]首に[illegible]五形かな　春岱

恵具

ちるの男の遊[illegible]や恵具に風呂屋道　三千彦

[illegible]恵具摘　馬年

豊

[illegible]の豊[illegible]その花　長翠

福壽艸

草やは草て[illegible]る寺の[illegible]　丁毛　蘿六

草の[illegible]雪の[illegible]り　志夫

見し霞や[illegible]福壽草　蔦三

[illegible]あるかや福壽草　丶

福壽草[illegible]草[illegible]　柳玖

人の手を離れる飾や福壽草　梅野

[illegible]福壽草　一草

削りかけ

削りかけ杉田の梅も付[illegible]　巣兆

[illegible]削りかけ　茶靜

[illegible]人の[illegible]や削りかけ　志丈

[illegible]削りかけ　素寉

小正月　歌ひさ富の華ひらくゆめ月　志丈
春雨しとしと富をぬ家やゆめ月　二三
雨雪をも徳をは彩てゆめ月　春岱
蓋角とかたの月あるやゆめ月　菁々
庫うつ素の盤うつうゆめ月　あるこ女
福若し　風雅なるは一筋を福ぶの　葛三
福佛大きな家の新ちう　祖郷
春かろし　松風ま新こうう春かろし　月居
あるもふの和いたし初芝居　ちなを紀
初芝居　物年の梅もちうう初芝居　茶徑
　　あるこ女

三毬打（サギテウ）　左義帳の寿ぐう雲や本寿の奥　百丈
とんと　松暮ゑ六浦のかんとかや　燒　巣兆
ゑゑゑど　新るの野ゑんの吟ゑうう　碩布
旅人の表きるさし出たんと　奥州　兎女
さめ〳〵ゑ雲ゑあるゑ　鈴　樓　半山
美しき世ゑ宋ゑうゑゑを　左ふ
回出ゑるゑ新る嫁やゑゑんと　信州　英丈
鈴樓やかゑゑねゑゑは吟唐　三千彦
ゑうう〳〵やゑ芳の素の　ゑれ　長翠
ゑう〳〵やゑゑ原氣の枕ゑも　重厚
繰曳やゑ羽織三ツ四ツ彩の上　茶静

餘寒

網代の扉さへや春の根かまる　江戸 桂造

草の戸の大絲ちらさき餘寒かな　蕪村

売る山の小札ゆしく餘寒かな　三河 卓池

草青の夜さへも見ゆる余寒かな　江戸 鉄夫

注連縄の中さくも見えぬ余寒かな　静雨

赤石のかくれてかくれね余寒かな　尓弓

一村は梅さく中の寒き余寒かな　五峴

草は咲きても消る寒さの空　千秋女

梅も去ね木々と切里の余寒かな　花江

草松は雑にたつる春寒さ　三千彦

春寒

春寒し月の見ゆる枕の中　重厚

冴返る

あきらかに出る春の寒さかな　升六

春の寒さ切り草履は並り尭　舞泉

日あたりへ出されは春の寒さかな　茶静

波に寄る見えて夜は春の寒さ哉　連志

春は来ても人の身のさむさかな　羽州 桃吏

春寒し蘭の匂ふ鶏の羽　啄秋

冬枯の心何ぞ移りて冴かへる　一桃

川上へ月はありあり冴かへる　孚石

春の雪

春の雪家鴨うちて住家かり　春鴻

いとしても能の春の雪　葛三

乞食の身の寒さや春の雪　亀丈

人のきらんとて降る雪　関夕
夢うつゝおもあるうつゝ雪　江戸　市山
淡雪　淡雪も降るね門の降雪　乙良
残雪　掃ちきらぬ笑ひのうる雪　信州　積翠
十日経みゝ来るうゝ降る雪　雉嶺
来るも来ぬ降るよ降る門の雪　易足
雪解　世を住めばよゝ降るや門の雪　来る女
松苗の形ばかりある雪解　一茶
山の雪解るゝ雪のうゝ雪　孤村
解る雪のうゝれもんきね梅　大坂　斗蓬
一肖

梅しさ乃あと川咀の雪解　蘿六
雪うけく松ゝとうゝ　江戸　香吹
雪解や畑の中ある園境　稲彦
苗ゆ雪ね雪の前ある雪解　三思
雪解の先くまつるや大井川　上毛　阿弓
昼ゝる日ゆ降るゝ雪ある　池明
来ゝ来ゝ水の降る雪解　信州　弥天
雪　雪間　苗より出たん和の来ゝ雪　巣兆
戸口ゝ雪の雪ある雪　浮石
雪仆　石垣や縁の雪仆下ゝ　保吉
雪仆や梅とみまつて咲く　万和

氷解　春もまちやうなる引うるおうる　一肖
霞易日人家ねもそふおうる　信州梅窓
凍解　雨霧や黄ふ畑も於田郡　左ふ
家〳〵の門は赤も有り陸霧　素考
初霞　松ハいつも蛙しき物を初霞　存亜
能布乎の雪を為て初霞　巣兆
雨雨ハいつの代は有る初のひく　嵐外
山ハ雪ハ如らしねハ〻ら雪初霞　上毛松兄
小山は赤る人のちね赤霞　雨考
嘆嘆山の明暗ハ〻ら赤霞　素窪
旅衣黄のつ〻ら赤〻ら赤霞　ち彩紀

霞

春〻けるは古木の梅や霞ゆく　三千彦
紙障や黄ゆ〻ら霞ハ北ゆく三丈　丶
霞日や仏の前の生ゆ〻る　巣兆
巨燈出ゆ〻ゆ〻ら月のさ死ね霞ハ　九董
霞氣色あ〻ら霞ゆ〻ゆ〻ら霞ゆ　月居
霞ゆ〻ゆ死ゆ〻ゆ〻ら月ゆ〻ゆ〻ん　乙二
霞ゆ〻ゆ赤ゆ〻ゆ人ハ種も事ハ　成美
霞赤ゆ〻ゆ呂も物ゆ〻ゆ〻ね時の名　幽嘯
仏の霞あ〻ら野ゆ〻ゆ風の吹ゆ〻ゆ後　雨塘
黄昏黄や黄ゆ〻ゆ霞ゆ〻ん陸ゆ〻ゆ　應々
霞赤の月あ〻ら人の二月出　茅丸

霧けむる小村の山　畠　孤村
夢ゆめさめる浦の霧　〃　志丈
燈火のつくや霧も秋霧　〃
二ツとハ無き霧も秋霧　〃
戸の只夢てうつるゆめ　〃　浮石
荒屋や霧ぬハ杉まはの秋霧　エチゴ　仁窓
秋霧や霧き本を抜て方霧　昌三
梢く本の抜つゝ見ゆる霧　信州　林霞
戸を明て霧ぬるや霧　〃　庚年
霧ぬるや陸の跡ゝ秋の霧　エチゴ　尚古
うすむらや人を焼せる物ゝ、　〃　与珍

昔とゝまるなく霧ぬ秋家　易足
むらゝ霧ゝ山　仙ケイ　清女
鹿屋や自然と霧　山　綾き　下毛　芭竹
四方ハ樹ぬ秋ぬ霧　〃　茶静
霧ぬ秋ぬ抜ゝの秋
入れの霧ゝ霧ゝ　在江戸　清湖
抜ゝれハ戸ぬ霧ゝ　〃　香吹
水汲ハ霧ぬ小川の霧ゝ　〃　不仙
霧をゝ山をいくつもかゝる霧ゝ　〃　呉翠
霧ぬやぬの霧きゝぬ霧の中　〃　千秋女
　　真橘

八重霞　信州　栄李
薄霞　信州　斗六
鐘霞　乙二
佐保姫　茶静
長閑　春鴻
尚古
三千彦
春蹟
成美
護物
三千彦

麗暖

柳玖
荷乙
幸雄
菊泉
義博
以吉
保吉
長翠
孚石

春の日

春の日は[illegible]
[illegible]の[illegible]
春の生木の[illegible]
春の[illegible]や[illegible]
春の日も[illegible]
春の日よりも[illegible]
春の日や人を[illegible]
春の日のさし[illegible]の火桶
春の日の[illegible]
春の日や[illegible]
[illegible]れて[illegible]

長翠
葛三
蓼太
士朗
恒丸
巣兆
江戸 大梅
羽州 桃吏
仁窓
一草

永日

松蔭は[illegible]
日永しと[illegible]
[illegible]
[illegible]
永きは[illegible]
[illegible]
[illegible]
永きものや[illegible]
日の永くなるや本宅の[illegible]
生てきものつりてをきもつ

鄙暮
羽州

葛三
蒼虬
淋山
千秋女
青々
上毛 千隣
信州 一朗
偶四川
芭丸
魚龍
茶静
蕪村

遅き日

おそきはの枕ゆきくれ　保吉
夢と生き　謙物
生きはやみ　一具
生きはの　古翠
凡そけるる雨の晴るる　茶徑
水つれ風の　茶静
糸柳のうるおくて高くてのあるる　蘭更
糸柳やきの六道にたる美陽　確嶺
糸柳の藤なき水の陰　伯夫
陽炎の　長翠
陽炎や藤なる旅つれ　葛三

陽炎や陽よりぬれくる蓮の葉　儿董
陽炎や雲の雲の雲の雲の雲の雲の　保吉
うけうめと陽炎き物と新さきき　士朗
陽炎や陽くは松聖もゆる　布川
陽炎や蓮の生るる砂のうく　真橋
陽炎やくるる帰きるうう屋し　東皐
陽炎や雲のつ東風をあけて来る　三平彦
東風　東風吹や陽る生とあをとうむ　菖古
東風吹やおかもかれぬ移の色　花光女
春風　春風や別生てうあるる水の末　長翠
春風や網きね陽の陰　年貢

春風の散らす花迄うり
くもきくの人のくもき平の作り春の風
物忘れて〳〵面白や春乃風
釣合のそらき月出さう春の風
拾の塔のうるさや春乃風
拾ふすも拾はやうあり春の風
用もなく上野まで来て春の風
春風や青物の新しく見ゆる
春二時て春風さらさら戸口うれ
春風や小平目と称る新うり
ふなうて流る春や春の風 信州

曉臺
三千彦
竹有
静一
旬光
荷乙
春紀
連志
香吹

春

雨

鶯なくを若君ハ聴なり春の風
春風や押通さぬ吹うね嵐
行くまつの力さらさら春乃風
山林の力さらさら春乃風
市中ハ春風ふるや松の葉 小クラ
聴くや春の新しる付ふく春の雨
幅立て〳〵家ハ花ぬすむ春の雨
春雨や枯木の山を傳ふ〳〵
内庭ハ夜ハ花ぬすむ春の雨
竹生ふるく苔の雨ぬすむ春の雨
春雨ハ降ふる新小海 雪

蔦古
梅木
蓼丸
霞羨
長翠
曉臺
三千彦
巣兆
成羨

保吉
巣兆
月居
若人
方舟
啄秋
浅香女
芦文
東岱
蓬國
董斎

蕪村
乙二
淇竹
梅野
葛三
孤村
楓江
啄秋
さゝ不
蕉々
一蕙

畑打

田打

田植

木の芽

椙の芽の生し一樹の秋不似
似るとも椙は芽まるる板うな
橘ほとゝぎす花の芽のはじめ
柳ら色とる跡ゆ春ある事の芽ぶ
甲乙の赤くそめくるる事の芽ぶ
世もしらぬ人の芽ぶ本の芽 時
汐陽て風寒うるぬ本の芽ぶ 信州

三平彦
成美
ちぎれ紀
梨玉
玉芝
錦水女
義博

草萌

茅の萌編の茅は陽ゆ茅の萌
赤ゆ芽は姫や芽の跡ゆ茅の萌
長ゆ芽ゆ春の事はゆ茅の萌
二ゆ芽の雀のおりゆ卅の萌

葛三
道澄
茅之女
良々

下萌

下萌や新るのつのきちの新
下萌やゆのそ穂ゆ麦の平

雨紅女
董斎

初草

初草や長れし文を見るかち
初草や赤のつ茅の生くゝ色

三平彦
寥松

若艸

茅の草や垂ゆ茅の尾の縫
新ゆ白ゆ茅の草ゆ茅の草
茅の草ゆ茅の草ゆ茅の草
ゆの草や接ゆる世ゆ人思ゆ新ゆ
茅の草や茅の草ゆ茅の草
ゆの草や赤ゆ人の行ゆ行
茅の草や世ゆ茅の草ゆ茅の草

士朗
ゝ
ちぎれ紀
香吹
不仙
桐居
芦之

若芝　長翠
春の草　高雄
白雄
暁臺
長翠
蕗の薹　三千彦
里月女
きさの女
茶静
蕪村

梅　三千彦
鶯菜　凡董
一草
乙良
有臺
阿兮
成美
麓水
長翠

[illegible]
梅は月ゆゑ[illegible]
梅は只晴よりなるものかゝれば[illegible]
[illegible]
[illegible]
老と老の中絶の梅咲まさり
梅折まるの[illegible]
梅のもと老[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

、三平彦
、
、春鴻
、羅城
士朗
乙二
、

立[illegible]人新や[illegible]梅のもと　可都里
守我[illegible]元[illegible]もとゆゑのもと　臥鵬
[illegible]文庫[illegible]種[illegible]梅のもと　、
[illegible]梅のもと　蒼虬
[illegible]梅のもと　申斎
打[illegible]二月の梅[illegible]　牛心
四[illegible]新のよ[illegible]梅のもと　葛三
梅の[illegible]　雨杖
[illegible]の[illegible]梅のもと　松兄
[illegible]　出雲
[illegible]梅のもと　可都里
[illegible]　雨塘

[illegible]

巴陵

一蕙

卓池

斗筵

旬光

久滅

素窪

春嶺

[illegible]

連志

[illegible]

梅濕

上廿 糸友

貞雄

庄内 蕪志

小哉

菁々

喜久守

信州 三俗

孔正

きくを

信州 左梁

梅の月うすくうるおひてこそ
さくなれ里の古き世こそ
ゆかしけれ梅の色
山里は薪も梅の白ひかり
明てゆく梅の月さえ破風
二月見て翌の庭の梅の色
年をへて付くしさや梅の色
此俤ふるさと一本梅の月
梅は二月重衣の初色咲ふるひ
春立て世話のかたらひ庭の梅
春立て梅の老木はかりかり

葛古　一皐
省古　意水
凍梨　龍玉
市山　冨貴
五栗　半山
日人　扇石
柳玖　詠帰
叢鶯　椿洲
長荘　友我
芋文
椿海

五二百寺に月さえ渡る梅ぶ　上サ　糸友
ふるき寺を聖く洗ひて梅の色、
梅咲や汐のさしくる川の上　小クラ　意水
梅咲て陸もよるるくるるぶ　十二キ　龍玉
うち咲や山ふる風の吹て来　六オ　冨貴
蕚て捨ふる寺くく梅の花うる　半山
寺や梅ふるれて咲る叢の香　上毛　扇石
咲仕舞梅よられあり女宮　江戸　ちりき
梅の月宮山かくれ出よるおのれ花、　詠帰
春平くくやうる月ひう梅の色　エチゴ　椿洲
張現花くくそ絶や梅の色　上毛　友我

白梅

古寺の古木に見まがふ梅花　長翠

梅や小菜こぼれの白さうな　巣兆

梅や有まかの雨さに人を集し　升六

梅や酒の瓶蔵しの西ひうる　春嶺

梅や以つこの世のかけり　三千彦

梅の蔵花のもしんつるのあん　蕪村

梅や照る障子の中一二日　暁臺

梅の俳くさくハあるうろ　成美

梅や壺あるしるる不二の雪　上毛　鹿太

梅ゆ来人稀りぬ山やしき　一蕙

梅や志賀の松の荒まさる　小クラ　梅守

柳

五十年柳ゝ見ねば書も陸　長翠

人の柳ゝらやまるもあるうる　〃

嬢のゝやもぬけるる柳ゝうる　〃

元ゆてゆれるる蔵の柳ゝ　三千彦

柳さく古ゝふ蔵る書るゝ　〃

火燈しの油ゝうゝる柳ゝのる　暁臺

旅人の見ゝ引つの柳ゝる　樗良

行鳥のあゝ不絮ゝる柳ゝ　巣兆

書ゝ見ゆれハ米ふも柳ゝ　〃

表の柳もゝれ仏ゆゝるる　成美

楚の柳日の書ゝ折れゝる　希言

事の時し柳を春色うな　冥々
眠きうやや柳色迷ハ又柳　可都里
迷まさわ春雨まきうひる柳　蒼虬
乃場よ春雨その時の柳　嵐外
家賀八山のようも柳　大梅
芽ようくなき色めつく柳　静雨
秋の時くまく秋の時る柳　忘丈
義千ハ柳し乾くはまく色　連志
閉るすし柳ふ枝まき柳　畢安
立筆る変ようゆる柳うな　茶静
迷ふるようなくくしき柳

少流を載てもおすく柳うな　春色
春も未ハ柳ようれうと　丶
夕の影の長くかくふく柳　千秋安
年時くハ柳の暮うな　東皐
四くかるる弦傍るく柳　古翠
夏三月雨て時き柳　香吹
いつの今ハ時ううもる柳　啄秋
雀くつの柳階うく庭うう　奥州
手時くうくう雨ふる柳うな　与人
望夕待ん柳ようく雨て伝のる　麓水
今ハくて雨の降出ハ柳ようれ　乙貞
武州　聞鳥

青柳

孔正　嘯月　梨玉　五栗　庚年　梅木　支我　五栗　鳥酔

下毛　嵐雪

芽柳

糸柳

接木

接穂

曉臺　長翠　椿洲　孤村　泊舟　梨玉　鳥酔　蒼虬　長翠　成美　乙二

[illegible]

雄嶺
与一珠
葛古
如春
さゝを
椿海
庚年
玉岱
白雄
保吉
升一

松の花

[illegible]

若ゝ

椿

[illegible]

碩斎
静雨
雄嶺
志丈
乙良
茶徑
士朗
月居
三千彦
一具
葛三

一寸の芽より伸びる椿の形
椿侍人寸れば月日の長さより
長も付いたまま咲く椿作
寸面のつくづくと俗椿の形
ゆうるるる遠ざかる椿のような
叢の椿寸面くなる表ぬくし
折られぬ前に椿の葉より椿
寸も寸〜西のさびし椿ちる
かるまつくる寸のさびし椿作
遠くゆる鳥の前に椿のような
寸折れば蕊朱なるべし新椿

江戸
鬱堂　春路
鳳朗　其玉
芳国　志丈
浮石
壺半
二三
ちうき

白玉椿
赤椿
娶菜

ある数の物ようくある椿作
ようく寸くて延の椿や義椿五千
ちる時の物ようくまのあるき椿作
寸ようくしく玉椿きく付し
寸ようく地祇ちるや赤椿
赤ばかり寸ようくちひ椿ちれ
押寸をもちるやうや姫菜寸
椿ようくしく寸ようくき姫菜作
寸を半〜日ばかりつのし姫菜椿
長寸きくは寸の平ある姫菜作
七種ようくしくも姫菜寸作

乙良　雨麦
苣丸
白雄
長翠
香吹
西月
伯夫
静雨
光玉
二三

三ツ葉芹　二月末より八月の末迄市場に出す芹
　　長翠
　　保吉
　　月邦
　　さくら
　　其玉
　　静一
　　白雄
　　樗堂
　　鳳朗
　　積翠
　　好雨

蓬生の宿とはいはれし芹哉　信州

菊萌る　春ふかのうさぎ　陶子の鶴志つ　うゝ　菊めぐる

菊苗　菊苗や京風の地おつる　上毛

あら先よ行人来るう菊の苗

猫の恋　猫の恋六々年越西行

猫の恋あはれ猫もなく恋なり

西行うゝ恋ひもうゝ猫の恋

居家やふる恋を猫の恋

恋ゝあるもしのふ人の猫の恋

小鮎　小鮎や恋せぬ猫も古手物

若鮎　若鮎や人ゝ恋ゝ猫の恋

白魚　白魚の底行小鮎小　信州　孟光

　　好雨

　　茶静

　　碓嶺

　　江州　涼湖

　　寿堂

　　長翠

　　葛三

　　暁臺

　　大江丸

　　士朗

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

白魚の骨を吹飛ばす

鶯

春鴻　梅室　友我　長翠

三千彦　葛三　蕪村　曉臺　儿董　保吉

春鴻　士朗　樗堂　乙二　可都里

巣兆　蒼丸　雨杖　篤老

成義　芳国
梅室　旬光
孤村
鉄夫
連志
梨玉
古犁
梅窓

信州
廉志　白堂
扇石
芦文
巖水
雉鳥
ちるき
易足
宇南
仁窓

鷺

雲雀

、鼎三　孔正　素行　春雪　苣丸　千春　長翠　弦武　兩紅女　長翠

、蘭更　三千彦　乙二　千影　應々　梅室　鳳朗　志丈　茶静　亀遊

一きり雨晴て時しむしきりなり
一椀の藻すも月の影ゆ時雨きり
百千鳥　折ふるも月の影ゆ百千鳥
　　芙蓉のいとこそとゝ百ちどり
　　岩の角ハ水も流て百千鳥
駒鳥　芙蓉もとゝ人ゆく沢ゆ弱ゆ
　　弱ゆ岩の角ゆ言ゆ駒鳥
蜆　　蓮の枯をさゝをのゝひゝ
　　此月と梅さく里や枯升
　　寒く永と人ハ乏ふ枯升
　　鶏よりも増る独ゆ枯升

糸友　南楚　樗堂　宇槁　松月　来布　市山　三平彦　伯夫　梅窓　千秋女

蛤　斗ゆ言ゆ言も枯の心のちゆ
蜊　蛤の中ゆ言ゆ言ゆ言ゆ
海苔　杉ゆ日ゆ黄く戸口やゆ　裕
　　我ゆちゆ数の物を蜊ゆ
　　蜊壹升入る月の影ゆ
　　海苔岩角ゆ言ゆ言ゆ水角ゆ
　　海苔岩角ゆ言ゆ海苔の蔭
　　住ゆの杉やゆ月ゆ海苔の蔭
　　庵の表ハ海苔ゆ言ゆ言ゆ
　　ゆきゆ月ゆ言ゆ言ゆ海苔の味
　　さゆ月ゆ言ゆ言ゆ海苔ゆ干上る小海苔

安　長翠　麓水　白雄　碓嶺　長翠　乙二　成美　升六　素崖　伯夫

縣　召

御　忌

二　月

信州　義博

蔘太　長翠

白雄

蕪村

瑞馬

長翠

可都里

二千国

素雀

志丈

孚石

連志

霞羨

孤星

芦舟

梨玉

茶静

可厚

貞雄

康志

衣更着

二三　小哉
上サ一　澄
上毛　嵐月
吉斎
桐居
老雀
傾西
玉芝
白雄

長翠
士朗
乗布
申斎
葛三
卓池
茶静
三平彦
静一
鳥酔
保吉

事納

初午

初年や梅見ねん年の梅を見ん　白雄
初年や江戸すもうしき四金を　芦ふき
初年やおなのくらのくらの人通り　孚石
初年や稽古唐土の言葉　雨紅女
仮名くゝ稽古そうれ釈　莫　二柳
面白い美男美女や涅槃像　烏酔
美くしの美男美女ねん像　春鴻
ねん金や梅数見ハまく梅さく　星布
唐寺ふふ見ハあるし涅槃像　重厚
唐寺ふふ見ハあるし仏ねん像　乙二
稽古ねん金や用の為ハ唐寺　日人

釈莫
涅槃

形まで仏も加賀まるねん仏　茶静
涅槃会や只ひとつきの世を生れ　雨紅女
只ね先生の美くしき南ねん像　雉嶺
ねん金や美くしき峰の美　〃
出家まるも美くしき仏のれる　白雄
乗の色も佛の色の色の　〃
去りし仏出家生して苦抜く　長翠
これ稽古美男の死ねハ仏ね　士朗
上ねまるく往てくるくる西行忌　阿州
来る春ひさくよ西行忌　鴎里
山色や梅の芽を抜ねん仏　雉嶺
彼岸　白雄

西行忌

佛の別

土入る者茅屋や彼岸　和
疫ものの土も春うるうるん色　春鴻
山里よりの辨のある彼岸か　三辛彦
素湯好よりの世せる彼岸か　蒼虬
後先よ家んのあるんうな　茶静
さもくあの春の出るる彼岸か　露園
むさし彼るの彼日あるる先　芹翠
新能　のつくきの義められつ法能の義　一葉
水口祭　竿者　水口ふる色　巣兆
積塔　積塔や近るるねの力働き　巣布
素雀
如毛

二日灸　積塔を見る彼日あるる義の厚　可厚
二つ〳〵戸口ゆるる二日灸　巣布
蔭もせる物の二事や二日灸　素雀
二日灸少納の孫孫きまる先　茶静
より彼見ね帝方ゆそ二日灸　連志
巣中あの月の上の巣のる二日灸　百丈
二日灸そ事も死ねつりる　叢
種卸　板絵者るるき雨や　種　信　蕪村
附札の孫ゆ出せる種ゆる　有木
照像の吸ゆるるゆや種ゆる色　可月
巣代中ゆを言合の種ゆる　碓嶺

苗代　粒々皆辛苦

苗代の秋水彩る春の手
玉苗やうつくしまの橋咲よ々も
苗代もつゝそもつゝよ松朗
稲葉山時鳥の苗代よ死時
苗代やはくまハ低き色る
苗代よ雲ふゝ西や四方の南
一粒もの日並ゝ西や苗代田
宿ゝ吹ゝ云ふ春来ゝ苗代田
ゝ代日よらんのさゝて苗代田
盗ゝる雀も群ゝ春の雲

三平彦
燕村
葛三
巣兆
荷乙
斗米
菁々
霞袁
玉岱
潮吏

春の空

初虹

陶器や梅ゝ咲ゝ春の雲
去年ゝ年ゝ月ゝ春ゝ春の雲
春の雲志賀もむゝ彩郭ゝ
初虹ゝ春ゝ春ゝ来ゝ隣の子
初虹や園ゝ彩ゝ来ゝ春の雲

成義
孤星
来成
茶静
菫斎
長翠

春の月

春の月船の夕仮色ゝ々ゝ
家上川春の月松ゝ流れゝ
春ハ彩春の月ゝ春の月
松も春もたゝ春ゝ春の月
春の月桔梗ゝ咲ゝ春ゝ咲
乙の子の生れゝ春ゝ春の月

春鴻
月居
乙二

春の月あとくまなくなるおもうかな　三平彦
十夕程先なる月よりも春の月　寥松
雁よりあれぬ岩うちなびくる月　米彦
秋暮の以やしき秋し春の月　蒼虬
夏まうねを越るや春の月　荷乙
庭苔の上に二枚や春の月　茶静
秋風こハ先や霜さしく春の月　孤村
西へ行もるる家ちのし春の月　静雨
四へ行もるる流れや春の月　ちゑ女
春の月以ま待く船を呼ぶ人　梅守
松の春の水る流れ春の月

四や畑も歩りてくんと春の月　霞羨
春の月西へくんかあるうるう　江戸孤濁
川一ツ越さ待ふんるうる春の月　三桂
秋も暮ても春くおりふや春の月　市山
岩よりある家は春やや春の月　イセ晴月
四ハのおく春ふ　ねたるの月　梨玉
人の家ふもりて岩るの春の月　あるる女
江の上や信をちらるま春の月　壺半
春しく春くく春ハ春のし春の月　文玉
男ふ春やあのふ春ふ春の月　苞竹
無垢もなけて岩るうる春の月　鳳石

一村を出れば村の月　佳風
寝る時のおろかなる顔し寒の月　〃
戸を閉ぢて屋根に寒し寒の月　櫻囿
山つの見代初けてもの月　方舟
形然の高出もや寒の月　啄秋
雨の降戸ま出るまり寒の月　孔正
里の名も高くなりて寒の月　〃
戸口まで出でも寒かる寒の月　出羽 文河
松島はてろかく秋や寒の月　信州 秋鯉
寒の月雨もまるねぬ墨うめく　五調
寒くて起きんとも寒く寒の月　芹翠

朧月

後初は出来た流やまるの月　桐居
人恋しなれいそきやかはるる寒の月　十人 悠々
出るかはるるもかはるる寒の月　謙々
雲の縁芽吉月和と云字記　白雄
蝕たれて縁空する月和か　長翠
嘆きまるるあんれ生を縁月　〃
吐上の形まるるやかるる月和　葛三
雨まるるりて縁ぬけるる月和　月居
新島を抜ー垣根や縁月　乙二
山まりまる雲消りてかるる月　芳国
寒の稲まるんとしの新て縁月　茶静

信州　一耕

朧夜　儿董

春の夜　長翠

成義

長翠

青蘿

葛三

士朗

春の雪

臥鵬

斗入

成義

碩布

蒼虬

花光安

泊舟

尚古

桜囲

重厚

几巾

余所の春のしらで志づかに雪の空　楓江
几巾空見て物ハおもはさりけり　白雄
風巾の糸人のこゝろに振りけり　長翠
几巾みせて今さ割きさ秋の様かな　士朗
家に七日ありぬ六郎とめるて
秋ハ秋とて見知る几巾の立処　乙二
几巾かけて秋に入るの稜き哉　蒼虬
蓬生や日暮て揚る几巾の音　梅室
望も出る日の暮に見ゆる几巾　素隺
手に来る波の揚るは几巾かける　如春
几巾の暮て果なく庚し妻姻　静雨

五加木

五加木垣教の宮の飯きかな　几董
花て芽て五加木に家の宝なり　扇雪

桜の芽

桜の芽や小家隣きの崩れ岸　三千彦
あれこの芽やさくらの八人も寿る　以吉

独活

独活の香や嗅に巾號き山の児　白雄
うれの香の鼻に薫て吹山路かな　佳風
噂ある独活の白さや宿の妻　李ゝ女

菜の花

菜の花や月ハ東に日ハ西に　蕪村
菜の花に阡陌の術の境しかな　長翠
あの花に伐蔵の雨の生汁哉　丶
菜の花に露きらふ山家かな　成美

菜の花の葉迄て来る霞かな　巣兆

菜の花や池より上へ八ツもり　大梅

菜の花や[illegible]金龍寺　禾木

[illegible]秋菜の花[illegible]　詠帰

菜の花の[illegible]隅田の原かな　春嶺

菜の花や[illegible]利根堤　千春

菜の花や[illegible]　雨紅女

菜の花やおそく降し朝の雨　乙良

菜の花や寺に程よき京の町　梅野

菜の花や[illegible]廿日ほど　江魚

[illegible]菜の花曇る夕かな　上毛　里川

青麦

大根の花

野大根

虎杖

苜蓿

菜の花に[illegible]麦の波　春岱

[illegible]青麦の[illegible]　仙化

[illegible]青麦[illegible]　芦舟

[illegible]　椿海

大根の花[illegible]　啓山

[illegible]大根の花[illegible]　碩斎

[illegible]根　蓬国

虎杖や[illegible]寺の山　一具

虎杖や[illegible]　清女

苜蓿[illegible]畑の小[illegible]　静雨

[illegible]苜蓿　李岐

以吉
巣兆
里月女
菖三
茶静
静雨
呉翠
成績
鳳石
碓嶺
志丈

早蕨
蕨
狗脊

菖蒲公英
芦の角

董斎
長翠
三平彦
有臺
信州
布川
吉斎
英丈
長翠
雨塘
議物
有木

あの角ばるものをとりて伸るなり　武州　川帶成義

芦の芽　芦の芽や葦こうこうが打のうる　雉嶺

あの芽や松のあまりの西さん　長翠

芦雛　芦雛ようけ刈て水の流れるり　三平彦

葭子　小山の古江池や葭子あり　志文

葭ハ長こうろうあるし葭子ぬく　三平彦

葭萌　葭萌の鴨も往しと葭萌ふ　白雄

土筆　ふせ竹の十日を土筆　乙二

陸くしくしの松の風も美し　大梅

日の影のちらこうこうこうこうこう土筆　素雀

土とりふ極て庵らん陸くしく

松のさく風の有きりや土筆　江戸　不仙

雨ハ雨ふるまり陸くハ　庵志

雛草　松ふるのちめちかくこうなる　義政

ちくちくハくるまくれ雛草　志文

杉菜　苗杉の新芽つかつ杉菜　巣兆

舟の鉢さくさくさくさくは杉菜　信州　思月

内庭に春のあれるも杉菜　雉嶺

馬酔木　四抵打春もきこえて馬酔木　讃物

米春の戸の戸ふるるや馬酔木　可厚

焼野　焼の戸の戸ふるるや焼野　葛三

松風の音ときこえる焼野　里川

山焼　東皐

世を焼けハあるこの野ゝ焼ハ　為女

世を焼やもゝ咲ゝしあるせ世ある　三平彦

かゝこうの人行あり手山を焼　茅丸

事ものゝ志ゝぬ手葉ゝ山をやく　露谷

あやゝゝゝ月あのうゝゝ山をやく　長荘

ゝゝゝこのゝゝゝ出事ゝ山をやく　素雀

畑焼　畑焼も事そ是丈の景ゝゝ　茅丸

芝焼　芝焼やゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　義博

自然の野ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　長翠

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　、

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

乙鳥

大津絵ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　蕪村

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　樗良

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　長翠

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　成美

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　千代女

人の事ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　、

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　江戸霞月女

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　椿海

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　下毛百樗

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　白堂

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　苣丸

貝鳥　香吹
雉子　尚古
雲鳥傳書を[illegible]
山伝や家あり鳥の[illegible]　二三
家[illegible]　成義
鳥[illegible]　升六
[illegible]　長翠
雉子の尾の[illegible]　三千彦
紙衾の若[illegible]　ひ二
[illegible]　梅室
雉子[illegible]　[illegible]女
雉子の[illegible]　孤村
雉子[illegible]

宮鳥　芦[illegible]
帰雁　三桂
一[illegible]　秋臺
[illegible]　江戸[illegible]女
雉子[illegible]　寥松
雉子[illegible]　確嶺
[illegible]　白雄
[illegible]　蕪村
[illegible]　士朗
[illegible]　月居
[illegible]　長翠

雀子

雪の下思ひあまりまつ咲くや
行方なきせてせんかしら盃
まつ程の咲くかなるよりのちれか
おのしさいかなるまつのふうれ
咲くまつ雪ふう能ようる
傳まつ行さくのちれかな
人ハこるの西咲くまつ
おひよんはるさくまつ咲る
一ふくハ袂よりうる咲
ちゝ母のあり兵衛よりめ
雀るやの家のしろハ虎芽原

葛三
巣兆
雉嶺
千蔭
梅間
梅野
古翠
乙員
秋臺
士朗
乙二

雀子と栄まのかくうくの秋
母様やかくう付蓋て鳴 雀
子等うの手の雨うね妻や雀の
蓋うのこうを連歩り雀か
引蓋て家鴨よりなかの鴨
鴨引や家もりなかの鴨
小田の傳雨ふてもりの鴨か
小鳥引 栄のあやかの蓋のあやかもり
伝栄や栄揚ふてくう行かる
栄さの雨うの家かもり
鳥交 南土の家の種植まるしる交

如毛
春嶺
友我
栄李
三平彦
丶
乙二
三平彦
丶
春嶺
三平彦

鶯　長翠
成美
保吉
長翠
春鳥　三平彦
白雄
鳥の巣　蘭更
長翠
八朗
蛙　東皐
蕪村

成美
三平彦
長翠
讓物
茶静
古翠
信州
文虹
梅野
さくの女

蓑

蓑こそこの世の春を窺ふなれ
初きさらぎや移ろひてひ咲く
蓑時雨や末の三日月まこと消ぬ

葛三
護物
子於岐
長翠

田螺

廣沢や水志つむ春を呼田螺
暦一ツ城さ伝世をへる田螺か
這ふようもこけるふかき田螺か

護物
孤村
白雄

初蝶

初蝶のちらちらも物よきれたる
さつ蝶の羽角よりくくもちくく

長翠
貞雄

蝶

初蝶や明くれ戸の雲の影
縁よりんの手の先なる蝶の
蝶舞や屋根の松葉を掃ぬ民

三平彦
葛三

蝶の舞あくるの橋も蒙よろ
綱よりの橋掛よりの蝶
函谷関あるうて行け那の蝶
うとかしたきしかくる於蝶か
一ツ蝶れハ中さ立ち春る於蝶か
蝶花や新を春るのこの俗生
蝶舞や茅部こ世ね志賀の宿
ちちくくく新ふ入り蒙る於蝶か
手綱よ出れる本ち蝶の那

巣兆
長翠
蓼太
月居
茶静

上毛

蝶の本る蝶の上
牡の蝶の本る法れ

丶
清湖
一具
杵白
苞竹
古翠

鹿落角

[illegible]

麓水　金翠　孤星　吉斎　桜園　一知　蘭更　保吉　長翠　丶　好雨

上毛

春の海

[illegible]

史弄　重厚　春鴻　長翠　蒭三　静雨　嘉陵　梅木　花江　茶径　梅野

春の雲　長翠

海苔ひやや海よりひし寿の雲

春の山　左ゝ不

かすみや流てる影も寿の雲　蘭更

春の山　長翠

まつ一ハ寿の八重山人のめくる

陸の つの一里ちの し寿の山

数日の数日ふもとの山

手ぬひよ載しハむの し寿の山　乙二

十さうり一ツるなるね寿の山　嵐外

手枕よ陸ハ寿の山　梅室

陸くまつ山さくく寿の山　茶静

家手を拾くるの陸くん寿の山　浅香女

水ぬるむ　花紅

ぬるむ人くの寿の山

芦原の水教ハ流てるぬるむ　春鴻

陸面の寿くなるむ流の影

ぬるとハ高ハきぬよ水ぬるむ　有木

春の川　董斎

橋姫も渡るのやうくまの川　テハ七人

寿の川　巴陵

寿の水山のまきまを陸れくう　鳳石

夕去ハ七ちとうゆくん寿の水　蕪村

寿の水陸ハを衣も陸るくし　几董

寿の水くるるむれハ早きくト　月居

ちくるの水まくふくくきまんあくと　長翠

三ヶ彦

[illegible]

武曰　上毛　乙人
笠人
孤星
梅木
如交
三平彦
長翠
丁知
長翠
茶静

武州

江戸

春の野

弥生

[illegible]

雛

[illegible]

茶静
千枝
連志
幸雄
五調
二三
三平彦
恒丸
茶静
孤星
若入

信州

紙雛

沙干

文玉　一具
苞竹　雞周
易足　梨玉
梅窓　保吉
一澄　蘭更
清湖　長翠
雪明　葛三
志丈　巣兆
易足　升六
成義　蒼虬
寥松

桃

[illegible]

梅室　茶静　志丈　[illegible]　梨玉　[illegible]　淇竹　斗筵　雉鳥　小哉　葛守

上毛　信州

花を待　志丈

[illegible]

上毛　聞鳥　以吉

初花

[illegible]

上サ　月久　茅丸　三平彦　葛三　譲物

花

[illegible]

上サ　玉子　長翠

長翠
三平彦
〃
〃
〃
葛三
〃
春鴻
暁臺
〃
重厚

星布
希言
完来
青蘿
羅城
月居
岳輅
可丸
巣兆
申斎
多代女

かけそめし月の雫も紫雲の井
時雨やそれ紅葉の上の白雲
小一時のうたてのこころやそれの雲
花をうたてこそ
花咲や生絹
花の風
咲咲て
花の面影
七夕
菊や松の木八重の吉

高代安
斗筵
茶静
春嶺
ハ
ちはる
壺半
池明
吉斎
月邦
文阿

高くの雲の情や分る信州
橋作や七夕の後雨
我くら時すも雲の山の雲
菊の雲や幾夫婦を隠る
海棠日の雲やそれの廣り
春の乃くハ面と
翌日八七夕八重
雲の井人の木とくハ
重なりて時の雲
高くこそ雲七夕
雲に春秋時てあしたの人の色

五山
鳳石
啄秋
茶静
一燈
麓水
積翠
樓面
易足
孤星
祖郷

上野

[illegible]

曲江　二千石　維石
孔正　信州　孟光
春樹　梅暁　景山
春雪　梅野　啄秋
武州　省古

[illegible]

武州　五十二　省古
信州　文雪　雨聽
千春　雉嶺
上毛　二千二　九夏　菫水
武州　如交
信州　壽磨　傾西

寺のしてゝるゝ流れん花の雪　傾西

花見　誰人の為とかかるもしらん花　葛三

いうめく子やもとんの屬ゆ袖　巴陵

花雪　花の雪をもつゝみもつゝみ　芦文

雪かるゝ　雪かるゝ枝の結ゆやもの雪　乙二

初櫻　蕚ゝもゝ蕚も初櫻　静雨

ゆるまく出る佛ゝ　ちる櫻　儿董

爲ゝふ秋ゝ　ちる櫻　三平彦

家ゝ　あてゝかゝけるや初櫻　保吉

老を待一筋ゝ　初櫻　葛三

うちゆくゝ　ちるや初櫻　葛三

ちるさゝゝ　ゝ取まゝ不ゝ　申斎

初櫻月ハ　ゝ出るゝ　五明

山近き　屋ゝ　初櫻　士朗

扨ゝ　ハ　初櫻　素檗

初しゝ　笑きる中や初櫻　梅室

名ハ　ゝ山きゝを初櫻　ゆゝ安

初櫻老ゝ　年ハ　ゝ　香吹

ちる櫻ちる　ハ　小哉

初櫻　ゝ　孤星

今ゝ　ゝ　花雪

櫻

上野

春嶺　白雄　凡董　春鴻　長翠　三平彦　葛三　樗良　祖郷　乙二

士朗　可都里　成美　素檗　巣兆　申斎　月居

あるしまの新うゑ竹の横
本のみを宮もれたる横
咲出たる月をまねぶ横
ちらしけるに新緑なる横
菊うゑ於聖日の日の残る横
雪を園ハうゑ神を咲横うれ
池上の横咲うり書の出来
支稿うしに新明る横
宮殿なる物ともうえた新横
蓮根の酒を水まも横ちる
菊るまもく物のをうき横

椿堂
桂吾
梅室
鳳朗
譲物
一具
露園
芝国更 瑞雄
荷乙
孤村

おろ抜てく蓼食山のさうく
菊うる横ま横く海うくき蓮
うの新方へうもく横、のれ
味やうよ川産され横うる
聖日を的まる術しく垂横
物云ハね横るもの帰れう
面のハ面ハしくうる横うの
をを面の暑うを陽ま横ちる
并うけるれまるく横
横咲てく産を山ある陸寺
明日のハ新し横のうけ上毛き

孤村
春嶺
茶静
一笑
涼湖
謙々
月久
淇竹
雪明
完明

常州　五竹　尚古　茶径　貞雄　以吉　孔正　江魚　信州　文耕　花雪　五栗

桜狩　曲江　鳳石　以吾　士朗　樗堂　少汝　蒼虬　井眉　卓池　一具　西阜

山桜

雲かゝる見定めかたき山桜　下毛　里雀

山桜見んとする事も浅し　信州　其逸

若菜つむ跡ある軒も見えし山桜　雨紅

植せねバ庭のむかしや山桜　尚古

浅山に見んとて冬かしやまさくら　小哉

門遠ひきる姥しし山桜　信州　松月

八重桜

かへりくる八重の葉もゆかしき桜　鳳石

八重桜名に傍も見ありけや　三平彦

見て遊んで来の夢かしや八重桜　こゝろ雪

遅桜

浅かくと後き吉りぬ遅桜　曉臺

またかくに桜はしまさきかけて桜　葛三

知りかねきものゝ人やおそさくら　樗堂

遅桜枕の上の初ものなり　月居

岩の月之端の木のかの遅桜　旧國

忘れたる咲て年も遅桜　碓嶺

おもひ出す咲て遅き桜かな　静雨

枝村の角力問て遅さくら　与卜珎

人かとも深き山あり遅さくら　史弄

遅桜それ年の雪ふりまくり　閑鳥

遅桜まだ萼ちく散りかかり　一翠

咲あまる来年おくれて桜かな　雪明

瀧桜

親もけや鹿の巻きさ殿桜　好雨

姥桜	川二
児桜	業丶
家桜	雄嶺
庭桜	さゝふ
桜鯛	菊三
	雄呼
	業
	二三
	小哉
	雄嶺

梨花	素霍
山梨	玉岱
杏	保吉
海棠	長翠
	雨塘
	阿兮
	長翠
	巣兆
	長翠丶
	亀國

海棠や古寺の夜の雨のみ　斗筵
海棠や名ゆの郭人寝しる　一朗
海棠や海へ押出す雨の色　幸雄
海棠や船へ雨の雫ふるふ　ちゑき

小米花　小米花せきしき世ふるる花　壽麿
片乃八雨て松ゝや小米花　以吉

小手鞠花　小手鞠もの咲てかゝれる白壁　長翠
小手鞠もの咲ぬ廣げ　楓江
小手鞠花咲て後雲ハもの多ゝ　碓嶺
ちりきぶはなりて乃ゝ雲ハ　桃吏
住人のゝうんあるゝ　長翠

蘓枋花　蘓枋

蓮翹　もゝ咲ゝ隅ゝ有ゝ蓮の実　来布
蓮翹は七つの日さゝゝる　長翠
ほんきやゝや蓮て新る百日草　思月
蓮ゝ南の妻ゝ胃や辛夷咲　旬光
辛夷さゝゝや二ゝ咲ゝ咲ゝ　伯夫
辛夷咲や茶ゝ日ゝ盛ゝ者ゝ　雄島
裏ゝ物ゝ日ゝ乃ゝ行家や辛夷咲　乙良
雛ゝ物の禁の辛夷咲ゝ　桃塢
咲ゝゝ日ゝ乃ゝ辛夷咲ゝ　さゝふ
降ゝ乃ゝ雨ゝ乃ゝ辛夷　以吉
一つゝゝもゝとゝ乃ゝ椿ゝ　長翠

辛夷

石南木

花櫨

茶摘　三平彦
躑躅　柳居
　　蘭更
　　栞
赤躑躅　乙二
　　一具
　　鼠月
　　二九
　　乙良
　　甫十
　　椿海

紫躑躅　保吉
藤　白雄
　　三平彦
　　成美
　　ちなき
　　阿弓
　　雨考
　　梅史
　　凉湖
　　清湖

木瓜花　三千彦
芥子若葉　葛三
桜草　魚辰
蘭　千秋女
以吉
千枝改
麓水
碓嶺
孚石
千秋女
信州　綾國

菫

白雄
凡董
長翠
成美
三千彦
丶
葛三
巣兆
謙々
禾木
春嶺

山吹

[illegible] 好雨
[illegible] 二三
[illegible] 信州 月桂
[illegible] 五調
[illegible] 弥夫
[illegible] 白雄
[illegible] 長翠
[illegible] 〃
[illegible] 保吉
[illegible] 三千彦
[illegible] 〃

八重山吹

山吹の咲そめてさきさのくりゑ　素檗
山吹や一條ゑくき傳うれ　舞泉
山吹やなの只ゐる少里ゑ　茶静
山吹のうゑ表なき垣根ゑ　与一女
山吹を樋てゑ戸口うな　東皐
山吹や船の泊うき料理のる　宇南
山吹やいうゑゑも蕚るゑはの戸きゑ　乙良

芽花

芋汁ゑ八重山吹の郷ゑうゑ　暁臺
魚さけて芽花月釈ゑ吹れ兎　長翠
泣ねゑゑゑゑゑ連人ゑ八芽花　月居
船の事ゑの吹ゑゑ芽花ゑ　孚石

自然と茎くさり芽出の茎の家　乙良
若荷竹　あるも茎くはしの下くさり落葉所　亀国
いづくの茎くさり落葉所　孚石
只白の物と茎くさり落葉所　霞棠
芋植る　一日々仏事斎して芋植る　呉翠
山居や茎なおされて芋植る　壽麿
水艸生　水艸生や塗も焚も手ふ　三千彦
自然ふ水の水芋生　〃
萍生　萍や生そめそめる新の雨　白雄
うき艸やねこ水きりけのあま生る　長翠
生初る岸ハ仏乃ノ星の新　〃

芹の花　芹くさや茎のさし芹の色　玉芝
ふくふくのうせるや芹の色　以吉
山葵　赤人のふくふくもれる山葵　兀雨
森て茎る極楽あくの山葵　一省
初鮒　茎けしん桂うれの中鮒市　凡董
初鮒や四つ八ツ旅の色　亀丈
鮒鱠　鮒鱠ふとしたとはなくくの
聲ふしし鮒原くや多なくく　碓嶺
四一枚男ふさ哭くや鮒　伯夫
雞合　すけ一鶏のくくもるる新の雨　椿海
鶏方もさのくくの思ひくくもせ　茶静
小哉

貝寄風　貝寄の風八柳はこのもとにわ
小鳥引　伝志や紫藤花のもとの松よりも
鳥雲入　山伝やもとの春の浦なかの
　　春もはや行衛や雲なる
　　小鳥なくなり一連　雲なる
　　雲まよりあきの象略

合　上毛千隣
三千彦　恒九
三千彦　麓水
幸雄　月久
暁臺　葛三
丶　春鴻

麥鶉　今日はうしろ鶉のうしろや雲の風
　　麥畑やとうとうの西ひる
　　志賀もやはり春て書鶉
　　人をはとをとをとをとを書うう
呼子鳥　為所をて有はるとを呼子を
　　うとうとのうとうとの春や呼子を
　　月角は八月表なり鳥呼子を
　　箇をも春はまきれなる呼子を
作鳥　作をもやはるうらの本をを作
　　作をもや春作うをのき山続き
蛍　ふるさと代の陸奥郡や蛍かな

志丈　麗水
左不　孤星
巣洲　壺半
松兄　旬光
白雄　麓水
白雄

蚊　保吉

蜂　譲物

壬生踊　阿弓

長翠

孤村

傾西

保吉

有月

連志

梨玉

三平彦

御身拭　以吉

御影供　乗布

蓮如忌　春鴻

藪入　桃吏

麓水

三平彦

碓嶺

白雄

蕪村

蘭更

やふ入のもり染やむしの香
出代の年くたるる孫うゑ
出代の座をうばふて世をうる
出代にくるる宮きさのうれ
出代や夏もこのうね木芽の夏
炉塞
炉ふさぎやつの田の埼彩の雲
寒ゆるし高山てうれし炉の夏
木地炉縁
木地炉縁の高き宵北
木地の炉縁をのゆるし氣色
寒食
餅笠の高る高の宮うな
高高や菴ハ夜ひうの春

岳輅
白雄
志丈
白堂
乙良
董齋
素窪
碓嶺
升六
碩布

春の霜
宮高や高の春の春うる新く
伊州の物ぬる山や春の霜
二月先く暁の鄙や春の霜
杉杉の新雨ぬ遠や春の霜
別霜
あ所の神ぬ玉て霜し春の霜
序秋の月ぬ霜のかうれ作
旅人ぬ春ぬ新ぬ霜のかうれ霜
新云の稿載ぬ別霜
百日ぬ春ぬ春ぬ春ぬ別霜
行春
り春やうつり心の菊ぬ春ぬ

譲物
保吉
葛三
亀丈
董齋
長翠
譲物
涼湖
麓水
孤星
春鴻

行春のとう志まつ春きて河水
孫ひこらんる物あるは春やより
行春や男ひとり春ふるるろ
行春や月の藤山ハ雲ふかし
り春の夜ハ屋くタ月
行春やあら木のうのくつまり
行春のあうらん雨ふる山路
ら〜も春く和人ふうて春の行
行春やとれろ生ぬ春の雨
春ふるうら〜春ふる行ゆう雨の鶴

春鴻
凡董
保吉
長翠
、
葛三
士朗
長斎
成美
一茶
蕉雨

行春と立ちの山続きん春雨の山
行春や少陽も金剛の山はして
春や春の行南も山の雲
仮初の春ふるのも春の雨
行春の知られてふる生ぬ
行春のよう仕物ある時ハ
行春やうるまはれる雨の社
英ふるハ仏の本ふるて春の行
春行やちりくよ泣くるの垣
行春や仏ものもうるの春
行春の浦ふくやうるる

静雨
、
南楚
二九
吉斎
、
素弓
月邦
乗布
雨紅
玉岱

春過る　春や坊の松の梢の日や春ゝとさして春ゝ　三平彦

春惜　春ゝとしむ人遠く似さるものれ　月桂

春ゝとしむ程ゝ春ゝ　月居

春尽　春ゝ鶯川や春ゝ　静雨

春ゝ　春ゝ　蔦三

春暮　誰ゝ　春ゝ　春嶺

丁時や春ゝ　聞鳥

春ゝ　蕪村

春ゝ　長翠

春ゝ　蔦三

春暮　春の暮ゝ　漫々

旅人ゝ　亀国

春ゝ　春ゝ　鹿志

吹風ゝ　春ゝ　春嶺

松風ゝ　春ゝ　月邦

十春ゝ　春ゝ　静一

日の暮ゝ　春ゝ　雄嶺

春ゝ　春ゝ　一新

春別　春ゝ　可都里

打捨ゝ　春ゝ　董斎

春名残　春の名残ゝ　長翠

思ひ出て俄に夏の名残かな　樗堂

夏近き

夏近るなるや猿俤の石柳　三平彦

笠垣や華も咲く夏近き　雉嶺

夏隣

夏隣の夏を藪一重　士朗

椎の木陰ととのうて四月花　麓水

夏隣う樹々の〳〵夏を隣りけり　かはら

四五日の雑やく〳〵や夏隣り　雨兮

笠縫の家のきさらぎ夏隣り　仝

春混雑

雪解の石垣やこの春の雪　鹿古

春三日は八幡ぶり梅柳　素行

ふる雪あきこ春ふるし梅菜菜　梅窓

東京